

設楽の城岩めぐり

— 鍬塚城編 —



鍬塚城全景を望む

城址は、東納庫の東に位置する大野山より、南に一キロの名倉地区東端にある小山が、タコウズ川に突き出た尾根の先端、通称城山に築かれている。頂上の本曲輪に土塁・櫓跡や虎口・搦手口が見られる典型的な山城で、防御の堅堀・柵形などの遺構が残る。

東側の急峻な斜面が川まで続き、北と南側は深い谷となる。西側が城の出入り口となつて、大手口の左右を堅堀で防御している。

小規模な山城であるが、山岳地帯であつたことから、当時の築城遺構を多く残した貴重な遺跡といえる。

城主は戦国期に活躍した名倉奥平氏で、喜八郎信光が知られている。

城の西方にある井戸洞は、落城の際秘宝の金鶏を井戸に投じた伝説が残されている。

(愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊)